

## 特集・かかりつけ歯科医師への信頼がコロナ禍での不安を軽減

2020年9月23日、日本歯科医師会から表記のような1万人に及ぶアンケートによる報告書が公表されました。我々歯科医師にとっては大変貴重な示唆を与えるもので、その要約を OISDE のニュースレターに載せさせていただきます。この報告書は膨大なアンケートに基づき分析を試みた意欲的な報告書ですが、長大であるため、エッセンスをまとめたものです。まず、コロナ禍で浮き上がった実態を5つにまとめています。

1. 流行当初、歯科受診に不安を持っていた人が63%でしたが、徐々に不安が和らぐ傾向にあること。2. 受診に不安を抱かない理由として、歯科医師への信頼と医療機関での感染がないこと。3. コロナ禍での歯科治療のキャンセル、中断が3割を超えたこと。4. コロナ禍での生活変化で口腔の健康リスクが増大する傾向に。5. インフルエンザやコロナ感染症と口腔の健康との関連性の認知は低く対応策も脆弱。以上の調査結果を踏まえ、項目ごとに詳細を俯瞰してみますと、

1.と2.については、やはり歯科医療機関の日頃からの感染症対策が受診者に安心感を与えてきたことが良く分かります。しかし、その一方(3)で歯科受診を躊躇う傾向が顕著にみられ、コロナ禍での患者の激減の実態が浮かびました。我々歯科医師は4.のコロナ禍における治療の中断による病状の悪化が懸念されていた訳ですが、やはり中断の理由にコロナ禍の影響を掲げる回答者が5割近くに上り、その計り知れない影響が顕在化しました。また、この報告書では4割が体重の増加を挙げ、また、8割の人がマスク着用によって口を動かす機会が減ったと回答しています。やはり、受診機会が減ったことが病状の悪化の懸念に関係しているようです。そして、5.にも明記してありますように「歯や口腔の健康ケア」はこのコロナ禍で実践率が減少し、やはり定期的な歯科医院によるメンテナンスができない事によるネガティブな傾向が明らかになりました。日本歯科医師会のこの報告はコロナ禍における歯科医療の実態を色濃く反映したもので、大変有意義なものとして、その努力に心より感謝申し上げます。

### 専門家の派遣がコロナ禍で滞る。

今年の三月以来ラオスは国際線の運航はもちろん、国境も封鎖し、私たちの重要な事業である専門家の教育派遣も全く滞ってしまっています。非常に残念な事ですが、一日も早く自由な往来ができる日が来るよう祈るしかありません。一方、ラオス現地での事業は政府の経済破綻で遅滞気味ですが、持田ビエンチャン事務所長の努力もあってもう少しで看護師教育が開始されます。最近のラオスの経済状況はこのサイトに詳しく載っています。

[https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64199450U0A920C2FF8000/?fbclid=IwAR25mLXitTV85nUANW2g\\_iJCxy9J5addaXaAjrWTDkaxAGYGf-hjthrhdfI](https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64199450U0A920C2FF8000/?fbclid=IwAR25mLXitTV85nUANW2g_iJCxy9J5addaXaAjrWTDkaxAGYGf-hjthrhdfI)